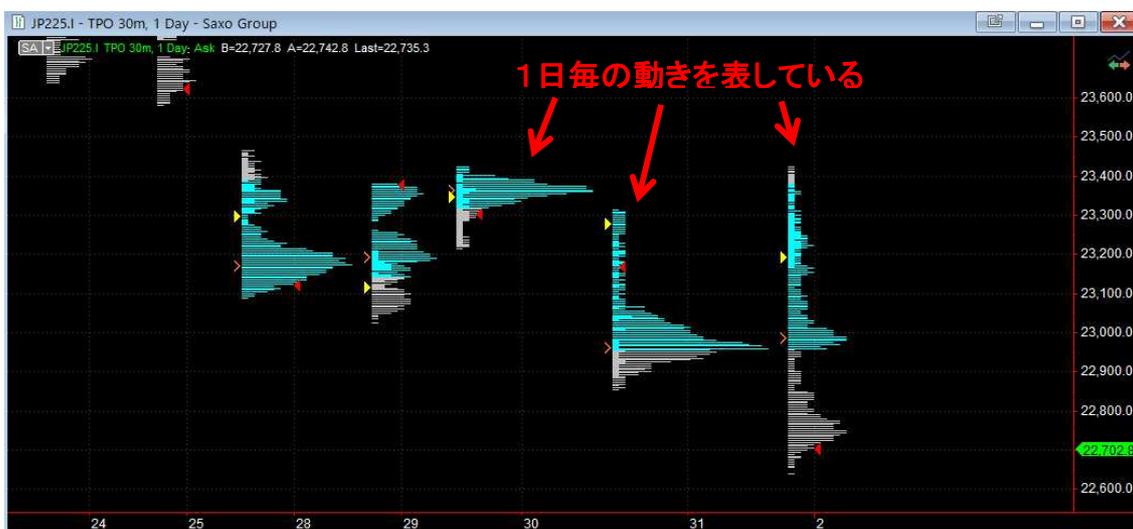


TPO チャートとは？

TPO とは、“Time Price Opportunity” を意味しますが、別名「マーケットプロファイル」と呼ばれたりもします。

このマーケットプロファイルは、シカゴ先物市場のトレーダー、ピーター・スタイドルマイヤー氏によって考案された相場分析手法で、1日ごとの動きを分析し、主にデイトレードに利用されます。

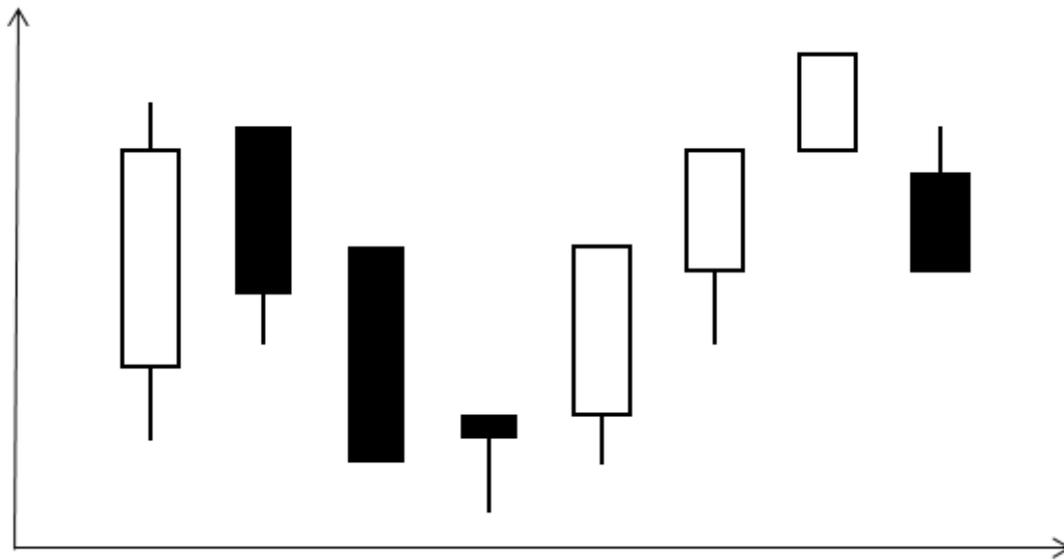
マルチチャートでは、下図のような TPO という表示形式のチャート描画が可能です。
※以下「TPO チャート」という。



TPO チャートの考え方（作り方）は非常に簡単で、主に 30 分ごとの価格推移を見ていくのが基本です。

仮に、ある日の動きを 30 分足のローソク足で表示すると下図のようになっていたとします。なお、陽線は白、陰線は黒で表示しています。

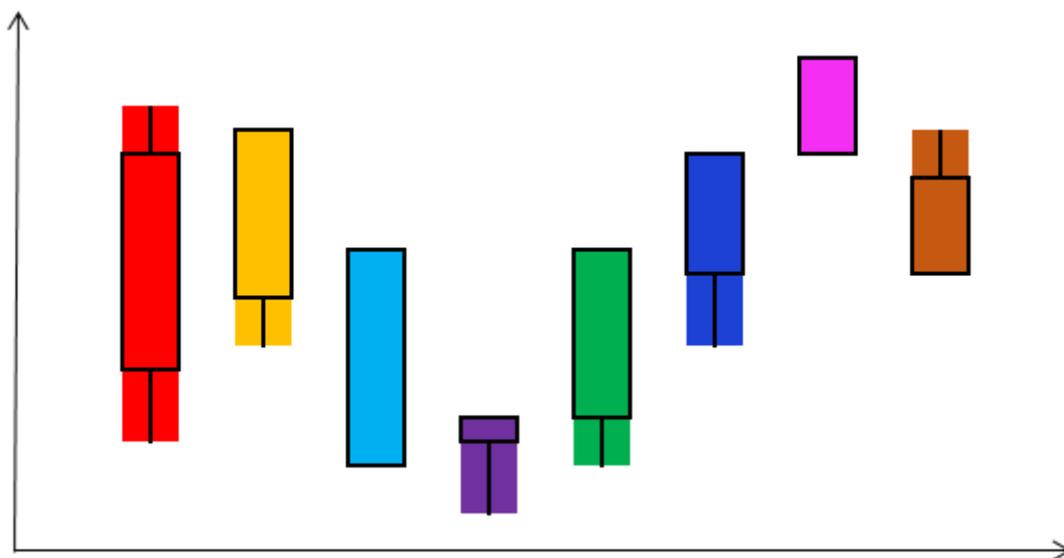
皆さんの見慣れたチャートだと思います。



TPO チャートでは各足の始値と終値は利用しません。つまり、ローソク足の陽線や陰線は考慮しません。

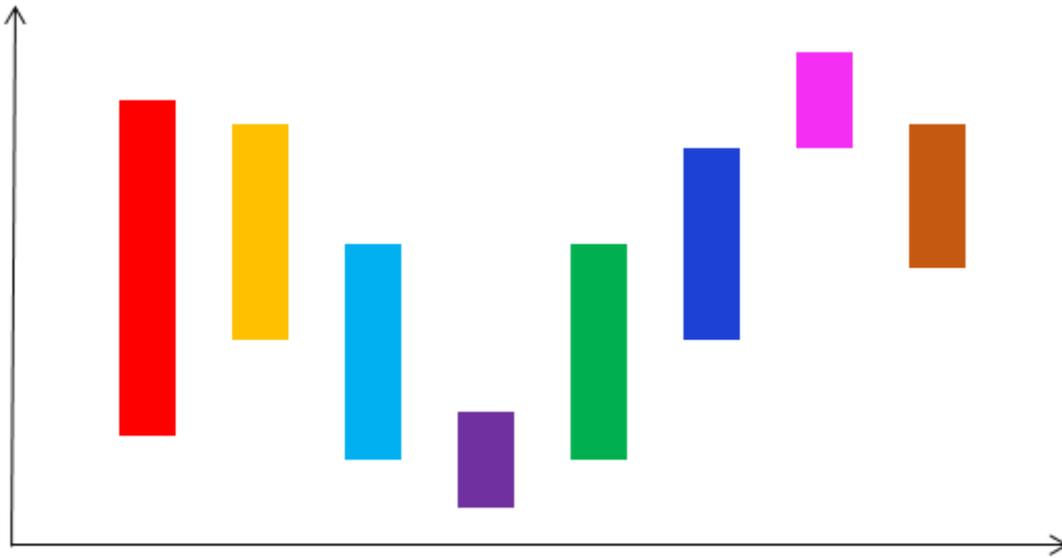
よって、上図のチャートから陽線（白）と陰線（黒）の色は外してしまい、各足を適当に色分けしてみます。色ではなく、A、B、C、D、E、F、G、H、……などと表示する方法もあります。

ここでは視覚的に分かり易い色でご紹介します。

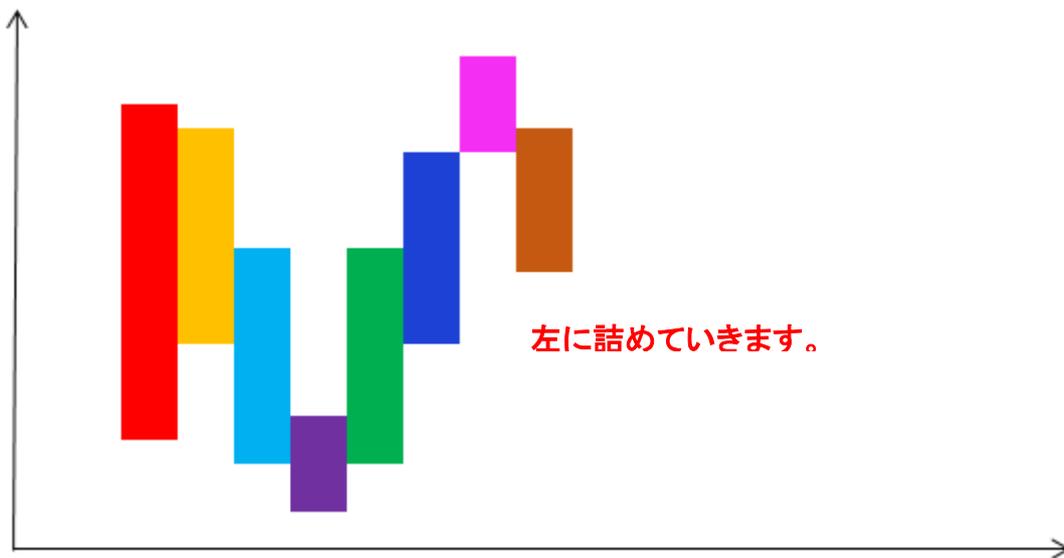


上記のとおり、各足の始値と終値は利用しませんので、ローソク足の本体とヒゲに分けることも必要ありません。つまり、高値と安値しか考慮していません。

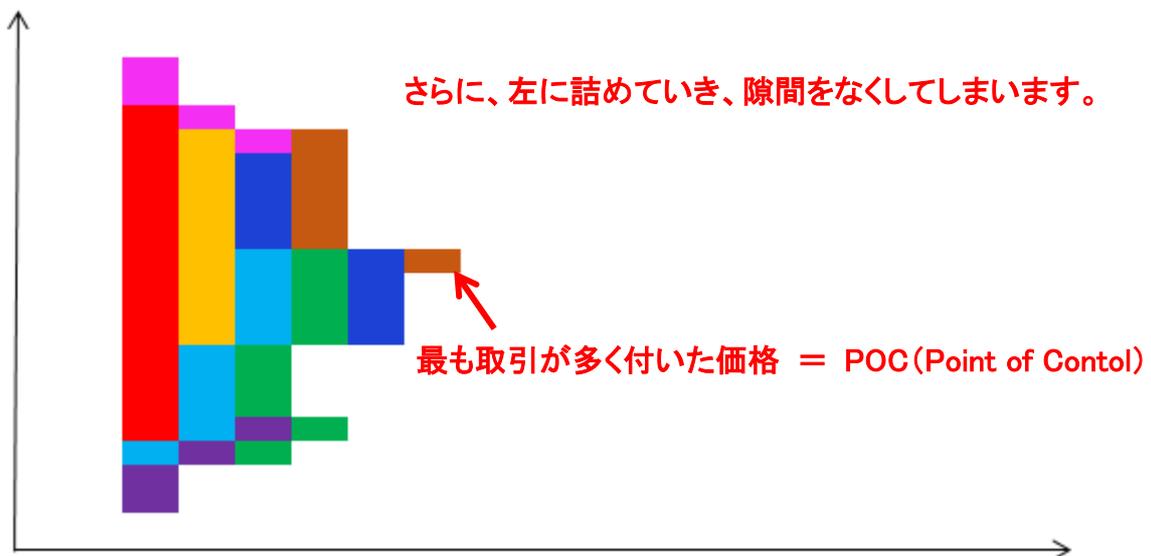
よって、下図のように、高値から安値に向かって色分けした各足から、ローソク足本体とヒゲも外してしまいます。



各足をどんどん左に詰めていき、隙間をなくします。



左に詰めていきます。



見慣れたローソクチャートから見慣れないチャートが出来上がりました。
当該チャートが TPO チャートと言います。

このように、TPO チャートにすることで、その日の価格帯の中で、どの価格が最も多く付いたのかが分かりやすくなります。

さて、ここから何を推定できるでしょうか？

この最も取引が多く付いた価格は、その日の取引参加者が、どの価格に注目していたのかを表していると言えるのではないのでしょうか。

そして、POC は「多くの取引参加者が注目（参加）した価格」ということで、後々にサポートやレジスタンスとして意識される価格になるケースが多くなるという傾向は少し想像できるのではないのでしょうか。

この最も取引が多く付いた価格を POC (Point of Control) と呼びます。
(“モード” と呼んだりする場合があります。)